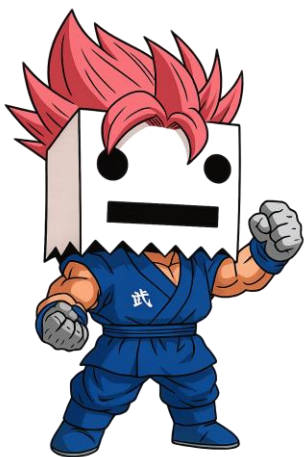




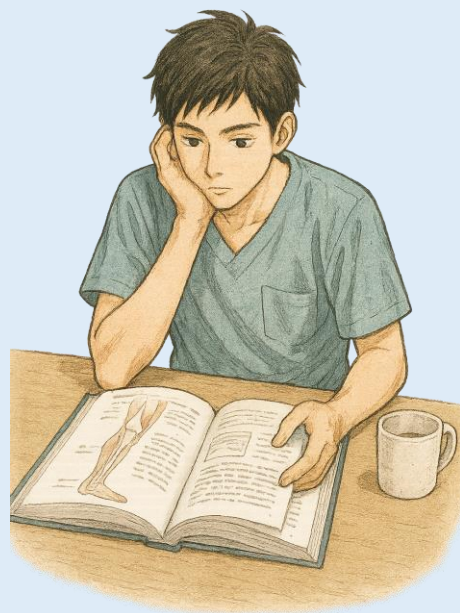
症例を通じた、臨床推論と治療の展開

-“なんとなく治療”からの脱却-

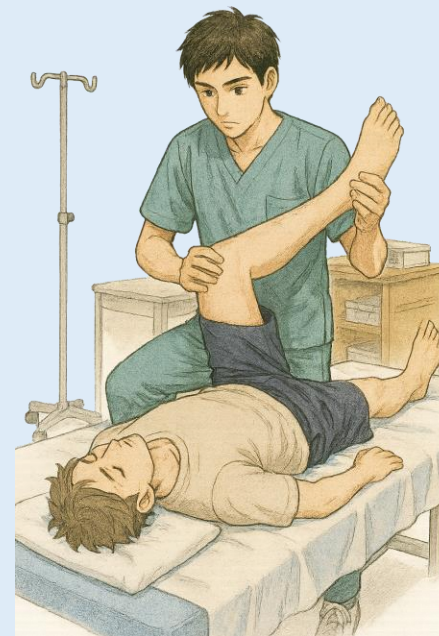


本日の到達目標

臨床推論の流れを理解し、治療に理由を持ち説明できる



症例を通して、仮説から治療・再評価までの過程を学ぶ



本日の流れ

1

臨床推論の基礎知識



2

COPMとGAS



3

症例動画で臨床推論





PROFILE

赤松 翔

株式会社 STROKE LAB

理学療法士

"Touch with purpose. Move with meaning."

SKILLS/HOBBIES

脳卒中認定理学療法士 / 3学会合同呼吸療法認定士

Bobath基礎講習会終了

ベトナム語 / 散歩・散歩中に自分の体の使い方を研究中

GOAL

ただ知識をインプットとするだけでなく、臨床で“どう使うか”をイメージしながら聞いてみてください。
明日からのアプローチが少しでも変わるような時間にできればと思います！！

本日は「臨床推論」の基本的な考え方を学びます

ただし、推論を行うには
「正常動作を理解していること」が前提となります

今後半年をかけて、姿勢・基本動作の捉え方とともに、
現象の「見立て」と「治療の組み立て方」を段階的に学んでいきましょう

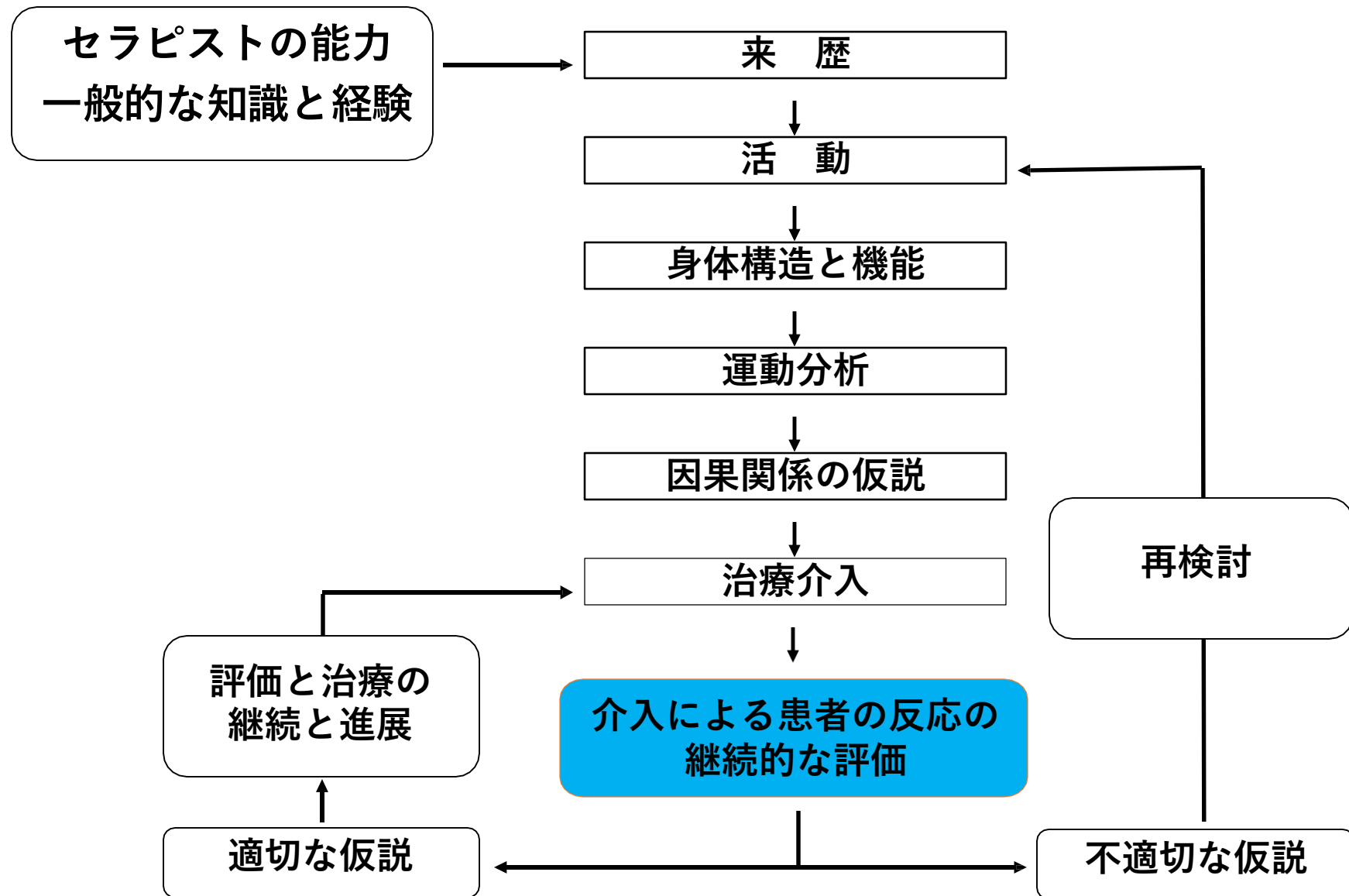
臨床推論とは？

- 臨床推論とは、対象者の訴えや症状から病態を推測し、仮説に基づいて評価・介入を選択していく認知的なプロセスである
- 観察・分析・再評価を繰り返しながら、問題点や潜在能力、機能的目標を明確にし、最適な問題解決を図る思考の過程である



評価と治療を
“つなぐ”
ための思考の技術

臨床推論のプロセス



臨床推論の5ステップ

1

適切な
情報収集

2

問題点の
抽出

3

仮説の
立案

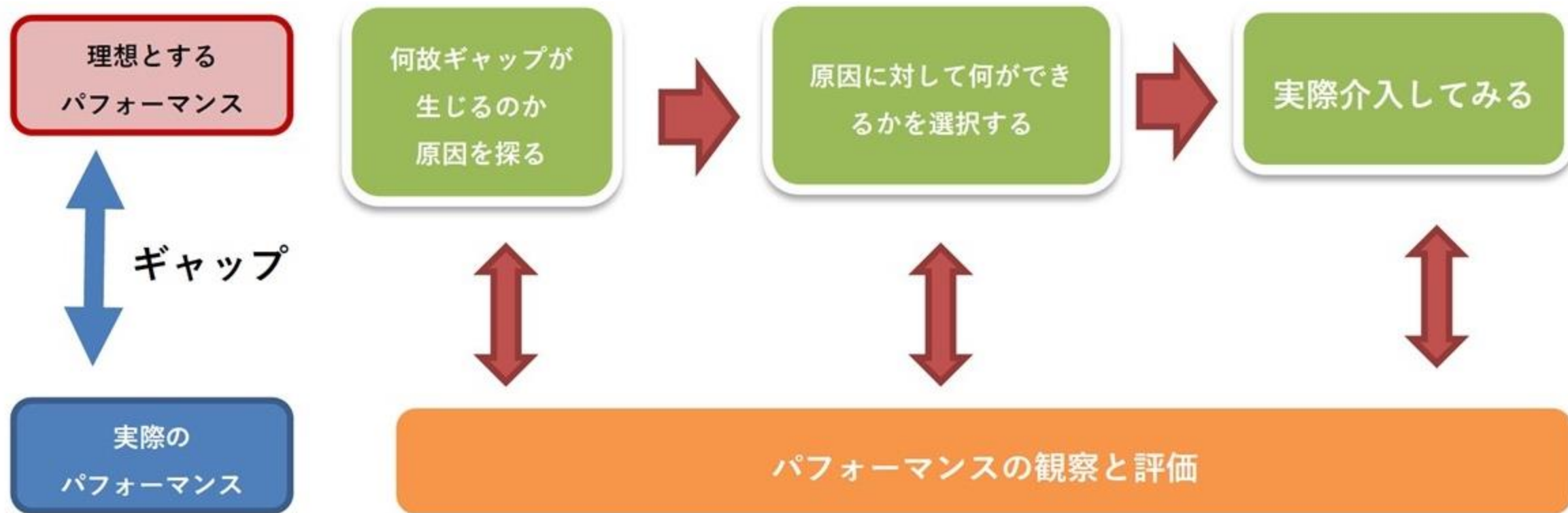
4

治療計画
と評価

5

内省と
学習

動作観察 VS 動作分析



初学者にもベテランにも臨床推論が必要な理由

初学者のエラー

- ・ 知識不足が原因
- ・ 知識はあるが使い方がわからない

→ 「何をどう考えるか」が曖昧

初学者には・・・

分析的（論理的）思考のトレーニングが必要

ベテランのエラー

- ・ 事前準備を怠る
- ・ 直感的思考に頼りすぎる

→ 「なぜその選択か」が無自覚になりがち

ベテランには・・・

直観を言語化し、振り返る仕組みが必要

脳卒中セラピーにおける臨床推論の難しさ

臨床推論の難しさ

- 解釈や意思決定は、経験に基づいた暗黙知に頼りやすい
- 対象者の徴候を脳活動の結果として正確に捉えるのは容易ではない
- 介入が脳神経系に与える影響を直接確認することはできない

必要な視点

- 潜在的な変化や能力を見極めるためには、感性や気づきが重要
- 独善的な判断を避けるために、症例検討や他者との議論を通じて、自分の解釈を知識と照らし合わせる姿勢が求められる

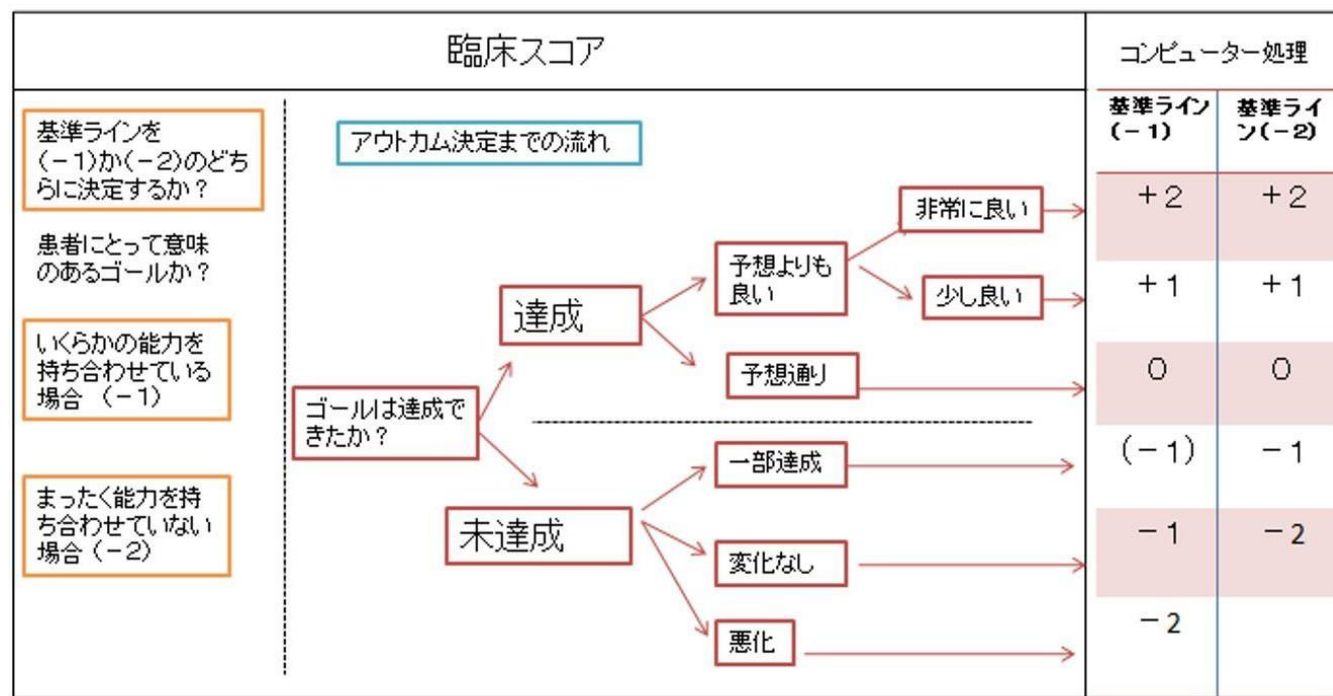
COPM（カナダ作業遂行測定）

- クライエント(患者)が日常生活で重要だと感じる活動を特定し、それに対する重要度や満足度を数値化して目標設定や治療計画に役立てるツール
- 基本的に全て主観的な目標設定ツールであるため、客観的なツールと組み合わせることを推奨されている

目標	重要度 (1-10)	遂行度 (1-10)	満足度 (1-10)
1. 自分で食事ができる	9	3	2
2. 自宅での移動能力の向上（例：ベッドからバスルームへの移動）	10	2	2
3. 上半身の着替え	8	3	3
4. 入浴/シャワー時の安全性	9	2	2
5. 趣味の園芸を楽しむ	8	2	2

GAS（ゴール達成スケーリング）

- クライアント(患者)が設定した個々の目標がどの程度達成されているかを定量的かつ客観的に評価する方法
- GASは目標の達成度を評価するため、身体の詳細な変化などでは評価できない。そのためコミュニケーションスキルやマネジメントスキルなどを要するため注意が必要



仮症例を通じた臨床推論の流れ「右片麻痺の症例」

現象の観察

歩行中、右足のつま先が遊脚期に引っかかる

仮説の立案

仮説①

股関節屈曲不足

（腸腰筋・大腿直筋の活動低下）

仮説③

骨盤・体幹の連動不足

（骨盤・体幹の回旋運動不足）

仮説②

膝屈曲不足

（ハムストリングスの屈曲動作が不十分）

仮説④

立脚側体幹の抗重力活動不足

（多裂筋・腹斜筋・殿筋群の支持性不足）

症例を通じた臨床推論の流れ「右片麻痺の症例」

仮説の検証

膝屈曲を補助しても、つま先の引っかかりは改善しなかった
体幹の抗重力活動を補助するとクリアランスが改善（ハンドリング）

治療介入

体幹の抗重力的な筋活動を促すトレーニングを選択